

学力診断調査の結果をお知らせします

先日行った「静岡県学力診断調査」の結果をお知らせします。今回のテストは、現在の自分の学習定着状況を知ることが目的であるため、平均点や学校内順位は出していません。御了承願います。

さて、前回の学年通信でもお知らせしたとおり、結果(点数)のみにとらわれるのではなく、現在の自分の学力を知ること。そして、2年生になるまでに「何を」、「どのように」学習すればよいのかをつかみ、実践することを期待しています。各教科では「学習相談票」を用いて、今後の学習の目安をつかみ、取り組んでいくように指導しました。御家庭でもそれらを見て、お子さんの学習内容を把握し、励ましていただきたいと思います。

各教科の振り返り

【国語】

今回のテストを振り返り、課題として挙げたいことは2点です。1つ目は漢字の誤字が多いことです。文章に書かれている漢字を写し間違えた解答が随所に見られました。普段から正しく漢字を書く習慣を身に付けたいものです。2つ目は読解力の弱さです。中学生になると説明的文章では、専門用語や抽象的な言い回しが増えます。文学的文章は、登場人物が複数出てきたり、場面転換が複雑になったりしていきます。それらに対応する力を高める必要があると感じました。そのためには、語彙を増やし文章の理解度を上げることが重要になってくると思います。

中学生にふさわしい読書内容を検討したり、新聞やニュースに触れる機会を増やしたりすることを勧めます。

【社会】

学年全体では、基本的な用語などの知識はある程度定着していました。その上で地理・歴史ともにそれぞれ課題がありました。

地理では、アフリカ大陸の略地図を書く問題やインドの位置を緯度と経度を用いて表す問題が出題されました。これらの問題は、世界地図の中で赤道や本初子午線などの基準となる線との位置関係が理解できているかが問われるものです。地理の学習では、各大陸の名称や位置、主な地形が頭に入っていることが前提となります。この2問を間違えた人は、前述のような、地理における基礎的な知識・技能を身に付けておく必要があります。

歴史では、資料を読み取り、その内容から理由を考える問題が多く出題されました。このような問題では、資料のどこに着目するかが重要になります。家庭学習では、一問一答形式の問題だけでなく、教科書や資料集などの資料を見て、分かることや資料の内容を記述する練習をしていくとよいと考えます。

【数学】

数と式の分野から基礎的・基本的な問題が出題されました。授業で学んだ大切なことをきちんと身に付けるために練習に取り組んだ生徒はよい成果を挙げることができていました。一方、分からないことをそのまましておいたり、分かったつもりで練習をしなかったりした生徒は今一歩だったと思います。

今回のテストを契機に、計算練習を毎時間の授業や休み時間に復習してきました。その中での取り組みを振り返り、今の自分がなすべき事は何か？をきちんと捉え、誠実に努力を積み重ねてほしいと思います。

テスト反省で、今後取り組んでいく練習問題を確認しました。毎日の家庭学習で、コツコツと取り組み、今回の学習内容だけでなく、関数分野や図形分野の内容も確実に身に付けていくことを期待しています。

【理科】

今回の学力診断調査を振り返り、基本的事項は全体的に定着していると感じました。計算問題の正答率も高く、学習の成果がよく表れていました。しかし、記述式の問題において、説明不足や日本語の不備等で減点されている人が目立ちました。理科の学習の中で、「この問題の要点は何か？」という事を念頭において勉強をしたり、授業で実験をする際に、指示通りにただ実験するだけでなく、「何を調べるために実験をするのか？」という事を考えながら実験に取り組んだりするとよいでしょう。また、日常生活の物理現象や生物の生態などに興味をもって調べ学習に取り組むと、今回のような問題に対応しやすくなると思います。

【英語】

全体としてはとてもよくできていました。今回は、放送問題(リスニング)が中心の問題でしたが、聞く力が身に付いていると感じます。一方、書く力では、学年全体として、以下の点の定着が今一歩でした。

- ・「～出身である」は「I am from～」となり、be動詞が必要になること。
- ・「犬が好きではない」ではdogs と複数形を用いること。
- ・What time is it ? では、文頭でなければwを小文字にすること。

自分の答えをきちんと見直して、ミスを確認し、今後の学習に生かすことが大切だと考えます。御家庭での励ましをお願いします。